

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
概要（全体）

南知多町地域公共交通活性化・再生協議会  
（南知多町）

平成20年12月19日設置

令和3年3月31日 南知多町地域公共交通計画策定

令和5年6月31日 令和5年度改訂版策定

（計画期間：令和3年4月～令和7年9月）

令和6年1月18日 令和5年度評価結果送付

## ■ 地域の特性と背景

人口16,617人、高齢化率39.0%（R2 国勢調査）で今後も人口減少が進行。

## ■ 公共交通ネットワーク

- ・ 鉄道による河和駅と内海駅、島の玄関口である師崎港を交通結節点とし、その間を幹線系のバス2路線（海っ子バス豊浜線、知多バス師崎線）とフィーダー系のバス1路線（海っ子バス西海岸線）を運行していたが、知多バス撤退により令和5年10月より海っ子バス南知多・美浜環状線に再編。運賃は海っ子バス、知多バス師崎線共通のゾーン運賃から均一運賃に変更。

## ■ 南知多町地域公共交通計画（令和5年度一部改訂）：計画期間 令和3年4月～令和7年9月

### ■ 現行の公共交通ネットワーク（令和5年10月再編）



『公共交通の将来像』  
 町民の日常生活を支え、来訪者に選ばれるシームレスで便利な公共交通を実現する

### ● 方針1 シームレスな公共交通ネットワークの形成

- 目標1-1 交通結節点の利便性向上
- 目標1-2 新たな技術の活用等によりきめ細かなネットワークを構築

### ● 方針2 利用しやすい選ばれる公共交通サービスの充実

- 目標2-1 利用しやすい仕組みの構築
- 目標2-2 まちづくりとの連携強化

### ● 方針3 持続可能な公共交通の確保

- 目標3-1 持続可能な仕組みの構築
- 目標3-2 地域で支える仕組みの継続

## 2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

### 【令和5年10月1日 路線再編 概要】

■ 知多バス師崎線の廃線方針が出されたことを契機に、路線再編の検討を開始。

#### 課題

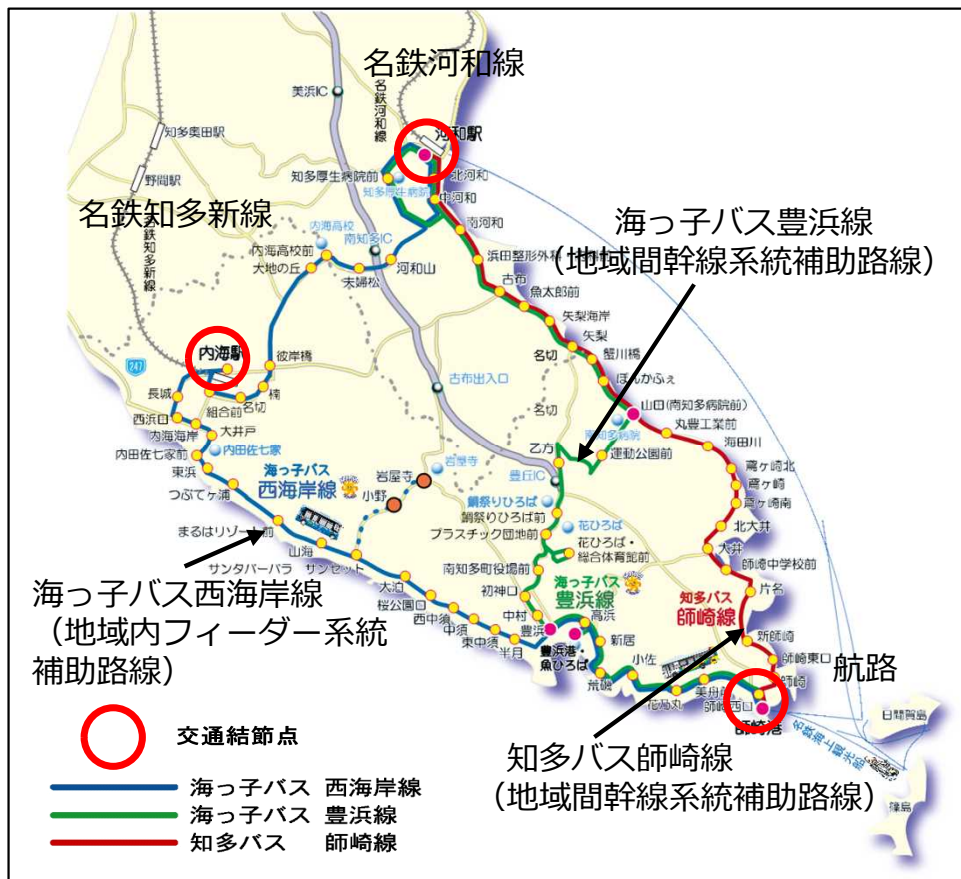
- 本数が少ない
- 乗継が悪い
- アクセスが不便
- 運行経費が高い

利便性を維持しつつ、運行経費を抑制する必要がある。重複路線があり無駄がある。

#### 対策

- 路線の環状化
- 乗継不用
- 本数維持
- 運賃値上げ
- 学生補助制度（利用促進）

乗継なく全てのバス停へアクセス可能。  
運行開始以来、初の運賃改正（値上げ）。



## 2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組	概要	実施結果	考察
★知多バス師崎線の運行（幹線補助路線）	令和5年10月から海っ子バス南知多・美浜環状線（幹線系統補助路線）に再編。合わせて、運賃改定、利用促進策（学生、小中学生運賃補助事業）を実施。	令和5年度利用者数53,821人は、前年69,719人より約23%減少	減便による影響により利用者数が減少。
★海っ子バス豊浜線の運行（幹線補助路線）		令和5年度利用者数101,511人は、前年80,565人より約21%増加	観光利用増により増加。
★海っ子バス西海岸線の運行（フィーダー補助路線）		令和5年度利用者数145,289人は、前年113,074人より約8%増加	学期定期の販売による内海高校利用者の増加、観光利用増により増加。
タウンミーティングの実施	令和4年7月に3回、10月に4回、令和5年7月に3回実施	参加者数は、令和4年7月31名、10月60名、令和5年7月37名	意見を踏まえ、海っ子バスのダイヤに高校生の通学に便利な特別便を追加。
町民感謝デーの実施（路線再編記念事業）	再編後最初の連休（R5.10.7～9）に海っ子バス無料券を配布	3日間で252人（1日平均84人）の利用。前年度（1日）76人から増加。	再編のPRにはなったが、新規利用の確認は不明。
小・中学生の海っ子バス運賃補助、学生（高校生、大学生、専門学校生等）の通学定期券補助の協議等を実施	令和5年10月から町内在住の小・中学生の運賃を全額補助。町内在住の学生の通学定期券代を全額補助	申込者数 ・小・中学生536人 ・学生188人 （令和5年12月31日現在）	今後、通学定期利用者数の変化等を把握し、実施効果を定量的に把握。
バスローケーションシステム導入	令和5年10月から導入	バスの現在地をQRコードから確認でき、利便性向上。	今後、利用者アンケート調査等で導入効果を把握。
日間賀島における自家用有償旅客運送の実施	夏休み期間に観光客及び住民を対象に運行	令和5年度（7月～8月の34日間）の利用者8,601人（1日平均253人）	利用者は増加傾向（R3年度5,853人、R4年度7,671人）。観光活性化に貢献。

◎：目標達成、○：目標未達成だが昨年より改善、×：未達成

**目標 1 - 1 交通結節点の乗降者数 【通学、観光客増により全体的に利用増】**

	駅・バス停	計画時 (R2)人/日	目標	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度	評価	考察
乗車人員 鉄道	内海駅	644.5人	維持	450.5人	469.0人	486.0人	○	昨年度より増加したが、コロナ前には戻らず。
	河和駅	2,038.2人	維持	1537.1人	1615.8人	1729.6人	○	昨年度より増加したが、コロナ前には戻らず。
バス乗降者数	内海駅	48.6人	30%増 (63人)	55.5人	67.8人	60.7人	×	河和駅利用にシフトしたものと想定。
	河和駅	248.1人	30%増 (323人)	343.3人	349.6人	426.8人	◎	内海高校の通学利用、観光利用増により目標達成。
	豊浜	36.8人	30%増 (48人)	40.5人	46.2人	47.6人	○	西海岸線、豊浜線の利用増により、昨年度より増加
	師崎港	129.9人	維持	204.0人	205.7人	225.2人	◎	観光利用増により目標達成。
師崎港の高速船 利用者数	2,163.7人	維持	1736.7人	1808.2人	2,034.9人	○	観光利用増により増加したが、コロナ前には戻らず。	

**目標 1 - 2 年間利用者数 【海っ子バスは目標達成、知多バスは減便で減少。名鉄海上は観光増】**

交通機関名	計画時 (R2)	目標	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度	評価	考察
海っ子バス 豊浜線	70,733人	30%増 (91,953人)	77,709人	80,565人	101,511人	◎	学期定期等の通学利用増加施策、観光利用が戻ってきたことから目標達成。
海っ子バス 西海岸線	101,445人	30%増 (131,879人)	122,013人	132,578人	145,289人	◎	
知多バス 師崎線	90,520人	維持	82,075人	69,719人	53,821人	×	減便により減少。
名鉄 海上観光船	1,017,003 人	維持	792,708人	803,577人	917,230人	○	観光利用増により昨年度より増加したが、コロナ前には戻らず。

**目標2-1 公共交通利用者の満足度 【大きな変化なし】**

交通機関名	計画時 (R2)	目標	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度	評価	考察
海っ子バス 豊浜線	47.8%	50%	64.0%	51.0%	54.0%	◎	目標達成。昨年度より若干増。ダイヤ等に変化がないためほぼ横ばい。
海っ子バス 西海岸線	55.6%	60%	53.3%	52.2%	52.9%	○	昨年度と変わらず。ダイヤ等に変化がないため評価変わらず。

**目標2-2 海っ子バス土休日の1日平均利用者数 【観光利用が増加し目標達成】**

交通機関名	計画時 (R2)	目標	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度	評価	考察
海っ子バス 豊浜線	164.8人	30%増 (214人)	195.6人	193.7人	278.5人	◎	観光利用が戻り、目標達成。
海っ子バス 西海岸線	196.5人	30%増 (255人)	248.4人	266.2人	292.3人	◎	観光利用が戻り、目標達成。

**目標3-1 海っ子バス収支率 【利用増により改善】**

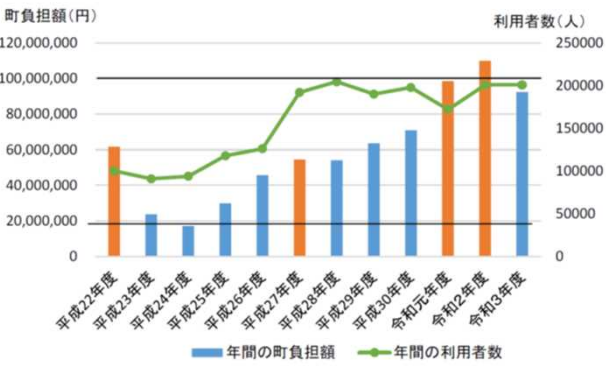
	計画時 (R2)	目標	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度	評価	考察
収支率	22.5%	30%	22.5%	23.6%	28.5%	○	利用者増により収支率は向上。

**目標3-2 町の公共交通費用負担額 【やや増加。再編で削減を見込む】**

	計画時 (R元)	目標	1年目 R2年度	2年目 R3年度	3年目 R4年度	評価	考察
費用負担額	102,361千円	維持	109,946千円	92,435千円	100,033千円	◎	再編で削減期待。

**目標3-3 タウンミーティングの開催回数、地域と連携した利用促進活動の開催回数**

	計画時 (R2)	目標	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度	評価	考察
タウンミー ティング	年間2回	年間2回	コロナのため未実施	2回	2回	◎	昨年より参加者は増加したが、まだまだ周知不足。

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>海っ子バスの利用者数は増加傾向で一部の指標は目標達成しているが、知多バス師崎線の利用者数は減少</li> <li>鉄道、海上交通ともに観光利用増により利用者数は増加しているが、コロナ前までは戻らず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行の取組を継続。</li> <li>知多バス師崎線が令和5年9月末で廃止。令和5年10月から海っ子バス南知多・美浜環状線による運行に再編。</li> <li>令和5年10月から、町内在住の学生（高校、大学、専門学校生等）の通学定期券代の全額補助、小・中学生運賃の全額補助で利用増を期待。</li> <li>電子チケット（回数券、定期券、一日券、クーポン付き一日券）の周知により利便性向上。</li> </ul> <p>⇒令和6年度は路線再編の評価を実施し、次年度以降に活かす。 ⇒目標年度（令和7年度）には目標値達成を目指す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>海っ子バスの収支率は目標未達成であるが、利用者増加により向上傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生、高齢者、観光客中心の施策を継続し利用者増を図る。</li> </ul> <p>⇒運行経費の削減と合わせて目標年度において目標値達成を目指す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>町の公共交通費用負担額は、運行当初の年間約2,000万円が12年経過した現在は5倍の約1億円に増加しており、町の財政負担が厳しい</li> </ul> <p>■市負担額の推移</p>  <p>■の年はバス購入費用も含まれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海っ子バス南知多・美浜環状線による運行により運行経費削減。</li> <li>運賃は現行のゾーン運賃から一律運賃に変更。（160円・300円⇒400円均一）。</li> <li>学生、小中学生の費用負担軽減。</li> </ul> <p>⇒財政負担を軽減し、持続可能性を高める。</p>

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の 対応方針
前回	<p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルートの統合再編にあたり、運行ルートの変更・運賃の変更に関して住民への説明・周知を丁寧に行うこと。</li> <li>・新しい系統が通院・買物などの日常生活の足として定着すること、並びに観光需要の取り込みに向けた取組が地域と連携して行われること。</li> <li>・海っ子バスの再編にあたり生活交通としての持続可能性を高め、利便性の向上のため循環系統へ統合しており、今後課題となる福祉的な需要との役割分担や相互補完・連携、需要の分配について各担当部署にて十分連携を図られること。通学による需要について、学校・地域と連携が進むこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タウンミーティング等で住民への説明・周知を実施。意見は、運行ダイヤ等に反映（高校生の通学に便利な特別便を追加設定）</li> <li>・教育委員会と連携し、小中学生、学生の利用促進に向けた運賃補助制度を実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年10月からの海っ子バス再編による効果、課題等を把握</li> <li>・交通空白地対応について、福祉部局とも連携し、地域ニーズの把握、施策等を検討</li> <li>・これらの検討を次期地域公共交通計画に反映</li> </ul>
前々回	<p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学利用への利便性向上、バスルート・ダイヤの検討</li> <li>・買い物等の需要を掘り起こしルート改善を検討する際の住民とコミュニケーションの継続</li> <li>・師崎線と機能分担等を検討し、利用者回復に向けた取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年10月に向けた路線再編の検討開始</li> <li>・対面とZoomのハイブリッド型タウンミーティングの開催</li> <li>・曜日や時間を変えたタウンミーティングの開催</li> <li>・小中学生無償化事業の試験的運用の開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海っ子バス循環ルート及び運賃改正の決定</li> <li>・バスロケ、キャッシュレス決済等の導入</li> </ul>

※前回：令和5年3月10日、前々回：令和4年3月10日



■評価・改善のスケジュール

		前計画期間	計画期間				次期計画期間
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
計画・事業のPDCAサイクル	Plan (計画)	地域公共交通計画の検討・策定		必要に応じて改訂	必要に応じて改訂	次期計画の検討・策定	
	Do (実施)		計画、事業の実施 ●バスOD調査 利用者アンケート	計画、事業の実施 ●バスOD調査 利用者アンケート	計画、事業の実施 ●バスOD調査 利用者アンケート	計画、事業の実施 ●バスOD調査 利用者アンケート	計画、事業の実施
	Check (評価)		事業、目標達成状況の評価	事業、目標達成状況の評価	事業、目標達成状況の評価	事業、目標達成状況の評価	
	Action (改善)		改善策の検討	改善策の検討	改善策の検討	改善策の検討	
主な行事			■確保維持改善計画 ■第三者評価	■確保維持改善計画 ■第三者評価	■確保維持改善計画 ■第三者評価	■確保維持改善計画 ■第三者評価	
協議会			● ●	● ●	● ●	● ●	

■協議会等の開催状況

	開催日	主な議題
令和4年度第3回協議会	令和5年1月23日	海っ子バスの路線再編、新運賃 地域公共交通確保維持改善事業の自己評価
令和4年度第4回協議会	令和5年3月23日	海っ子バスの路線再編、新運賃 地域公共交通計画の評価結果（案）
令和5年度第1回協議会	令和5年6月23日	海っ子バスの路線再編、新運賃 地域公共交通計画の改定（案）
海っ子バスの未来を考える会	令和5年7月24・25・27日	海っ子バスの路線再編及び補助制度の周知
令和5年度第2回協議会	令和5年12月22日	地域公共交通確保維持改善事業の自己評価

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月22日

協議会名: 南知多町地域公共交通活性化・再生協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
レスクル株式会社	海っ子バス西海岸線(A, B) 河和駅～知多厚生病院前～内海駅～岩屋寺～豊浜～豊浜港・魚ひろば～師崎港	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルートの統合再編にあたり住民への説明・周知を丁寧に行うこと</li> <li>・日常生活の足及び観光への取組が地域と連携して行われること</li> <li>⇒タウンミーティング等で住民への説明・周知を実施。意見は、運行ダイヤ等に反映(高校生の通学に便利な特別便を追加設定)</li> <li>・福祉的な需要について、担当部署と連携を図ること</li> <li>・通学需要について学校・地域と連携が進むこと</li> <li>⇒教育委員会と連携し、小中学生、学生の利用促進に向けた運賃補助制度を実現。福祉的施策は今後検討。</li> </ul>	A評価 補助対象期間の開始日以来、運休・遅延等はなく、計画どおり適切に実施されている。	A評価 西海岸線の利用者数(A, B系統)を131,879人とする目標に対して実績は145,289人であり前年度より増加し目標達成となった。土休日の1日利用者数は、255人の目標に対して実績は292.3人であり目標を上回った。観光利用については、新型コロナウイルスの影響が回復しつつあること及び電子チケットの導入などの利用促進事業による。また、高校生の学期定期の発行や町民感謝デーなどによる生活交通としての利用促進の取組の成果といえる。補助金により運行便数を維持できていることから、通勤・通学や買物等の生活交通利用の維持、観光利用増につながった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知多バス師崎線の撤退に対応し、令和5年10月から海っ子バスを南知多・美浜環状線に再編を実施。また、通学利用促進のため、学生の通学定期券及び小中学生の運賃補助制度を創設。これら施策による効果、課題等を把握し、利用増につなげる。</li> <li>・交通空白地対応について、福祉部局とも連携し、地域ニーズの把握、施策等を検討する。</li> <li>・これらの検討、取組を次期地域公共交通計画(令和6年度～7年度に策定予定)及び生活交通確保維持改善計画に反映する。</li> </ul>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年12月22日

協議会名:	南知多町地域公共交通活性化・再生協議会
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(陸上交通における地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>(1) 目指すべき将来像 『町民の日常生活を支え、来訪者に選ばれるシームレスで便利な公共交通を実現する』      既存の鉄道・バス・タクシー・航路の利用促進に努めるとともに、これらの特徴を活かしながら、MaaSの取組、自動運転等の新たな技術の活用、グリーンスローモビリティ等の新たな運行形態の導入等により、シームレスで利便性の高い公共交通を確保します。      また、町民や交通事業者等の関係者と協働の取組を進め、町民の日常生活を支えとともに、来訪者にも選択していただける持続性のあ      る公共交通の構築を目指します。</p> <p>(2) 将来像の実現に向けた方針と目標      将来像の実現に向け、次の3つの方針と6つの目標で施策を推進します。      ●方針1 シームレスな公共交通ネットワークの形成        目標1-1 交通結節点の利便性向上        目標1-2 新たな技術の活用等によりきめ細かなネットワークを構築      ●方針2 利用しやすい選ばれる公共交通サービスの充実        目標2-1 利用しやすい仕組みの構築        目標2-2 まちづくりとの連携強化      ●方針3 持続可能な公共交通の確保        目標3-1 持続可能な仕組みの構築        目標3-2 地域で支える仕組みの継続</p> <p>(3) 事業実施の必要性      上記の方針と目標に基づいて各種事業を計画的に実施し、PDCAサイクルによる評価改善を繰り返すことによって、将来像の実現を目指      します。</p>